

峰のひかり

発行人
 社会福祉法人 七峰会
 理事長 奥田 稔
 〒036-8356
 青森県弘前市大字下白銀町 21-8
 電話 (0172)33-8861
 FAX (0172)33-8862

21世紀も13年目 転機を迎える社会福祉と七峰会の歩み

社会福祉法人 七峰会 理事長 奥田 稔



新年明けまして
 おめでとうございます

皆様には、健康に恵まれ2012年の初日を迎えられた事を心からお慶び申し上げます。

今、地球上の諸条件がどんどん変化して進展する中であってわが国の社会福祉も大きな転機にきています。1981年の国際障害者年、1983年以降の国際障害者年の10年、ノーマライゼーションやリハビリテーション理念の確立な

どの歴史を経て、国連は、2006年に障害者権利条約を採択しました。現在、106か国が批准しています。

わが国においても批准に向けての法改正や検討が進められているところです。

2011年7月には「障害者基本法の一部を改正する法律案」が可決、成立しました。同じく9月には、障害者自立支援法を廃止し、新たな「障害者総合福祉法」の制定に向けて、総合福祉部会からの骨格提言が国へ提出されたところで

す。識者の皆さんが『21世紀のそれはこれまでのもとは違う・・・。81年の国際障害者年とその後継続してきた』障がい者“の10年運動の成果をしっかりと誰の目からも見えるところに置こうとしたものである。』と評価しています。障害者総合福祉法に代表される新時代の福祉施策と進め方はこれまでの20世紀の福祉

基盤や背景とは全く違った条件になっていることを知ることができます。障がい当事者の皆さんの思いが込められたもの

であり、段階的、計画的実現を目指したいとし、国では平成24年の通常国会へ法案を提出する予定となっています。

すべての国民が障害の有無によつて分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会を実現することを願ひ、七峰会では、施設利用者の生活と地域で暮らすことへの高齢者、障がい者の生活支援に対して、さらに責任を認識しながら事業を進めてまいります。医療行為を含む重度の方たちの施設生活支援、施設から地域で生活していくための支援、地域社会に果たす役割の認識や就労することの支援、障がいの児童に対する療育支援、歩くこと、食べること、おむつはずし（おむつ使用者ゼロ）など、人間の尊厳回復に係る積極的取り組みを展開している高齢者施設での支援など、一人ひとりが「本当に良かった、生きていてよかった。」と喜んで、人生の新たな挑戦ができるよう努力していきます。

どうぞ本年もよろしくご理解とご協力のほどお願い申し上げます。



拓心館グループ

より良い対人援助を
実践するために

―内部研修・充実の5回講座―

私たち福祉職は、利用者の方の利益を第一優先に考え支援しています。その内容について判断に迷ったり、職員間で違いがあったりということは日常的に起こりうることです。それは、職員の個人による価値観の相違、経験の差、利用者の方との相性など、様々な要因によって左右されるからです。チームで支援する以上、できるだけ高い専門性を持ち、統一したものである必要があります。

そこで、『弘前学院大学』小川幸裕先生をお招きし、『スーパービジョン(SV)』という援助技術を月一回、6〜10月の計5回にわたって学びました。終業後、拓心館グループの全職員が『就労サポートひろさき』に会し、2時間、座学と演習を受けましたが、これまで何となく分かっていたつもりの方がいかに曖昧であったか、また、目から鱗が落ちるような気づきの連続で、非常に自身の濃い研修でした。

SVとは、スーパーバイザー(指導する者)がスーパーバイジー(指

導を受ける者)から担当事例の報告を受け、示唆や助言をすることで適切な援助・指導ができるように展開していくこと、とされています。分かりやすくいえば、上司が部下に対して仕事上のアドバイスを与え、専門家としての資質向上を図りながら、共に成長していくことを目指します。

小川先生の解説・解釈はとても具体的で、いずれも身に覚えのあるようなエピソードを引き合いに出し、相手の発言の背景を探る―つまり表面だけを見るのではなく、一歩踏み込んで理解しようとする姿勢と、自己を認識し、専門職としての価値を見いだすことが重要であると話されました。

職員対職員、職員対利用者という対人援助は簡単ではありませんが、今回学んだ理論を全職員が共有していけば、利用者の心に届くサービスを、提供できる手応えを感じました。

障害者支援施設 山郷館グループ

虹のコンサート
30周年記念コンサート

今回の虹のコンサートは、30周年の記念コンサートでした。

音を贈る会の片山先生のご紹介

で、ポーランドで活躍しているピアニスト黒瀧浩氏を向かえ、ピアノのソロ演奏と東奥義塾高等学校グリーンクラブの皆さんによるコーラスの2部構成となりました。

ピアニストのソロ演奏を生で聞く機会は中々なく、利用者の皆さんは叙情豊かなピアノの音にじつと耳を澄ませて聞き入っていました。

演奏された曲は、「ショパンの大作ポロネーズ」と「さくらさくら」「七夕さま」「赤とんぼ」「砂山」の4つを主題にした「対位法遊戯」日本の四季」を演奏していただきました。

グリーンクラブによる合唱は、迫力の歌声、元氣溢れる歌声で全10曲を歌っていただきました。

その中で「上を向いて歩こう」「もみじ」といった馴染みの歌を利用者の皆さん全員で歌いましょうと誘われ、総勢70名の大合唱となりました。



利用者の皆さんはマイクを持って声を出し、楽しそうな笑顔を見せていました。

音を贈る会の皆様をはじめ多くの方々のご支援により30周年を迎えることができました。

虹のコンサートは、これからも施設利用者との交流と来年も山郷に素晴らしい音が響くことと思えます。

いきいきと働く楽しさを

朝一番の「おはようございます！」という利用者の方の元気な挨拶から、今日も1日が始まります。

デイサービスセンター黒石、就労継続支援B型事業(非雇用型)では、現在、センター内の清掃とクリ

ーニング、そして平成23年4月よりスタートした宅配弁当の作業を行っています。

「今よりも、もっと上手く洗濯物をたためるようにしたい。」と話すのは、利用者のOさんです。「施設の利用者の方から、『これは一体、誰がたたんでくれたものですか?』と言われる位、上手にたためるようになりたい。」と教えてくれました。そんなOさんの作業に取り組む誠実で真摯な姿勢は、他利用者の手本となっています。

また、体調が悪くても減多なことでは休まない現在57歳の利用者Kさんは、楽しんで作業を行っている様子がしている側にも伝わって



きます。「あと3年、60歳まで頑張る。」と熱く語ってくれました。

利用者のみなさんは、それぞれ個性的でユニークなメンバーが揃っており、毎日、和気あいあいとした雰囲気の中で作業に取り組んでいます。作業では、責任感を各自に持つてもらい、粗末にならないよう「時間がかかっても丁寧に行う事」をモットーにしています。人と接するのが苦手な方、体力的に疲れやすい方など、さまざまな利用者の方がいらつしやる中で、それぞれが仲間のことを理解し、思いやる気持ちを持ちながら、互いに声を掛け合う事を大切にしています。

今日も、各自が目標に向かって明るく元気に作業に精を出します。

拓光園グループ 「発達障害児への支援」 連携と一貫した支援を

発達障害児への支援

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の中に、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団が主催する「発達障害児に対する早期支援基盤整備事業」があります。これは、発達障害児の早期発見、支援を目的としており、平成23年度は、青森県、徳島県、沖縄県の3県で実施されました。青森県においては、拓



光園に事業の実施依頼があり、様々な活動の計画や運営を行いました。

活動内容としては、

- ① 津軽圏域の医師、施設関係者、学校関係者、行政関係者から成る委員の方が、保護者や職員からの相談を受け、具体的な支援のあり方について指導する「子育て支援訪問活動」(『拓光園障害児デイサービスセンター』・児童デイサービス『はあと』・『寒沢保育園』・『ひかりの岬こどもデイサービスセンター』・『療育支援センターおおしみず』で実施)。
- ② 障害児支援関係者が一堂に会し、障害児を対象としたグループワークや保護者を対象とした相談活動を実施する「子育て支援集団指導」

(拓光園体育館でのカレーライス作り、板柳町ふるさとセンターでの陶芸絵付け、クッキー作り)。

③ 前青森県立さわらび医療療育センター所長の吉村伊保子先生や弘前大学教育学部附属特別支援学校校長の松本敏治先生による「子育て支援養成講座」(弘前市民会館、弘前市社協において保護者、施設職員、学校教職員等のべ約100名の方が参加)です。

訪問活動においては、様々な相談が寄せられ、それに対応できるように委員に、保護者はもちろんのことと、私たちスタッフも多くのことを学ばせていただきました。また、集団指導での活動では、施設利用時には見られない子どもの一面が見られ、支援のあり方について考えさせられました。更に、養成講座では、医療的立場からの考え方、教育的立場からの考え方を学び、あらゆる方面から支援方法を考えていかなければならない大切さを痛感しました。

医療、福祉、教育、行政等が連携し、早い段階から一貫した支援を行なっていくことが大切です。この事業から学んだ多くのことを、今後の当園事業に役立てていきたいと思えます。

身体障害者授産施設 旭光園

仕事での喜び

猪股拓也さん

今年春から通所利用を開始し働く仲間となった猪股さんに現在の心境を話して貰いました。



猪股拓也さん

私は高校時代、2度『旭光園』で実習し卒業と同時に通所を利用することを運び、現在に至っています。最初に園に来た時は作業より周囲の方や環境に慣れることで一杯でした。始めての作業は割箸入れ替え作業を行いました。周りの人からやさしい言葉を掛けて貰いどうにか実習を終える事が出たことを覚えています。

進路について色々悩みましたが一般社団法人と同じく自宅から、働きに出掛けたいと思いました。その希望が叶い、本当に安心しました。

現在の作業は、旭光園オリジナルの紐付きゴミ袋作りを行っています。最初は周りのペースに合わせなければとあせり、仕事が雑になったりしました。職員から『まずはゆっくりと綺麗に折る』と助言をされた事でプレッシャーがなくなり今ではどうにかコツを掴み、や

りがいを感じています。

学生時代と違い、働いた分工資を頂いたことが嬉しく、自分で稼いだ実感が沸きます。

まだまだ将来のことについて心配や不安はありますが、まずは現在の作業にマイペースで取り組んでいきたいと考えています。

猪股さんとはとても話し好きです。

自己紹介の時、元ヤクルトスワローズ野村監督のものまねをして笑いを取るなど、明るい性格の若者です。これからも楽しく仕事をしながら活躍できるようにサポートして行きたいと思っています。

「全員常食化を目指して」が最優秀賞に輝く

10月4〜5日の2日間、「全国老人福祉施設研究会」が岡山県で開催されました。(大会参加人数2936人)

『サンアップルホーム』では、今回初めて、3つの取り組みについて発表しました。①従来型特養ユニット別ケア(藤田朝子フロアリーダー発表)②昼夜おむつゼロへの取り組み(東谷康生フロアリーダー発表)③全員常食化を目指して(大里めぐみ介護主任、萩原友実調理リーダー発表)がそれぞれの分科会に分か

れての発表でした。(①②については第5-1分科会「自立支援介護の実践とその成果」発表者18組、③は第4-1分科会「ADL、QOLの改善・向上(口腔ケア、リハビリ)」発表者17組)その中で、「全員常食化を目指して」が、最優秀賞を頂きました。これは、11月に高知県で開催された「全国老人福祉施設大会」での発表を依頼されました。

『サンアップルホーム』では、利用者さんに、おいしいと思えば食べていただける食事を目指し、ミキサー食とぎざみ食の廃止に向けた研究・工夫を3年前から行いました。平成22年4月にミキサー食に変わって増粘剤を使用しない「嚥下食」が完成しました。利用者さんには「おいしい」「形がある」「箸でも食べられる」などの好評を得ました。

嚥下食を食べる利用者さんが増える中、国際医療福祉大学大学院、竹内孝仁教授の指導は「胃ろうも含めた全員の常食化」でした。平成23年6月には、嚥下食とぎざみ食も止め、経営栄養以外の73名全員が常食化を達成しました。(本紙75号で紹介)その後、現在までに、経営栄養5名の方も常食となっています。

今回、『サンアップルホーム』での取り組みが評価されたことは、職員一同うれしく思います。今後もより一層、自立支援介護に精進していきたいと思

居宅介護支援

山郷館居宅介護支援センター ☎072941

サンアップル居宅介護支援センター ☎072131

特別養護老人ホーム

サンアップルホーム ☎072111

サンアップル短期入所生活介護センター ☎072400

サンアップルヘルパーセンター ☎053758

認知症グループホームアップル ☎072778

認知症デイサービスセンター1 ☎072013

サポートセンターわかば ☎071165

認知症グループホームわかば ☎072131

サンアップル在宅介護支援センター ☎072131

住宅型有料老人ホーム「わかば」 ☎071888

高齢者介護事業

障害者支援施設 山郷館 ☎072211

山郷館身体障害者(児)短期入所事業所 ☎072211

山郷館アイサービスセンター ☎072211

山郷館アイサービスセンター弘前 ☎072211

山郷館アイサービスセンターくれよん ☎072211

山郷館地域活動支援センター ☎072211

山郷館児童デイサービスセンター ☎072211

山郷館訪問介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

山郷館介護センター ☎072211

障害者支援事業

主に知的

障害者支援施設 旭光園 ☎051555

旭光園身体障害者短期入所事業所 ☎051555

旭光園短期入所事業所 ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

主に身体

障害者支援施設 旭光園 ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

旭光園生活介護センター ☎051555

総合支援事業

教育指導 ☎05018

障がい者就業 生活支援センター ☎04524

障がい者就業 生活支援センター ☎04524

障がい者就業 生活支援センター ☎04524

障がい者就業 生活支援センター ☎04524